

Nadeshiko-no-Kai Report



東京学芸大学 附属小金井小学校 ● 同窓会

撫子の会

小学校は
エンピツの
匂い

会報

21

号



コロナ禍で 行われた 卒業式

お世話になった先生方や父母に見守られて。限られたスペースの中、ソーシャルディスタンスを保つため、例年と違い来賓の方や在校生の姿はありません。



今年度の附属小金井小学校の 取り組みについて

副校長 塚本博則

今年度の4月より副校長に就任いたしました塚本博則と申します。研究教科は体育で、出身は伊豆大島です。本校に着任して18年目(担任4年、教務主任13年)を迎えました。

前任の副校長の関田義博先生は、子どもや教職員とのコミュニケーションを積極的に図り、各々が個性を発揮できるよう配慮してくださいました。私も関田先生のもとで学んだことを生かして、全力で取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度の学校経営は、「違いを認め合う」(多様性の尊重)をキーワードに、「明るく思いやりのある子」を重点目標に設定しました。本校に通うすべての子どもたちにとって、学校やクラスの中に居場所があり、自らの存在感を実感できるように様々な機会を捉えて一人一人が活躍できる場を作り、互いに認め合える雰囲気づくりに努めます。

また、今年度の教育活動の重点の一つに「ICTの環境整備及び積極的活用」を挙げました。今年度より教科部会としてICT部会を新設しました。本校の予算が限られているため、大学の情報教育関連予算で全学級に電子黒板を設置してもらい、国のGIGAスクール構想により校内無線LANを整備し、5・6年生に一人一台タブレットPCを配布します。また、文科省の事業に応募し、獲得した予算で5・6年生用のデジタル教科書を導入したり、情報支援員を確保したりします。

創立110周年記念行事につきましては、11月14日(土)に記念式典を実施する予定です。当日は全校児童が参加して式典を行い、その後、音楽家を招いてコンサートを開いたり、全校で集合写真を撮影したりします。同窓会の皆様にもご協力をいただきながら、記念事業として、第1グラウンドの改修工事、記念樹アカナラの植樹とプレート設置、学校紹介DVDの改訂を進めます。記念

パンフレットや記念品も作る予定です。

しかし、皆様もご存じのように、新型コロナウイルス感染症の拡大により、学校は昨年度の3月のみならず、今年度の4～5月も臨時休業になりました。6月1日からようやく学校を再開することができましたが、3密を回避する新しい生活様式が求められ、学校行事も中止が相次いでいます。1学期に予定されていた4・5年生の一字荘生活、3・5・6年生の至楽荘生活は中止を余儀なくされました。

しかし、臨時休業期間中も子どもたちの学びを止めないように、ICT部会が中心となって「Microsoft Teams」の活用を始めました。4月は各家庭で環境を整えていただきながら試行的にTeamsの活用を始め、5月からは学習における課題提示や活動支援等はオンラインで行うことを基本にしました。取り組みの様子は、新聞等でも紹介されていますので、ぜひご覧ください。

まだまだ厳しい状況が続きますが、教職員が一丸となり、前を向いてこの難局を乗り越えていきます。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。



【6年生から赤ふんの締め方を教わる4年生】



【一字荘生活5年生】



【遠泳6年生】



【生活科の学習】



【生活科の学習】

退任にあたって

前副校長 関田義博

令和二年度は新型コロナウイルスの蔓延という非常事態の中でスタートしました。ウイルス感染によりお亡くなりになられた方々には、謹んでお悔やみを申し上げます。

私は、三月末をもちまして附属小金井小学校副校長を退任させていただくことになりました。小金井小学校には、教員として十九年間、副校長として十三年間お世話になりました。振り返りますと、特に副校長としての在任中は、撫子の会の皆様方にはいつもあたたかく寄り添っていただき、ときには力強く学校と子供たちを支えていただきました。長きにわたり副校長としてやってこられたのは、本校教員や保護者のみならず、同窓会の皆様のお力添えが大きかったからこそと思い、改めて感謝、御礼を申し上げます。

四月からは、東京学芸大学教育学部教授兼附属学校運営参事に就任いたしました。仕事場は小学校と中学校の間にある建物です。年度はじめから大学も休みのため、五月からはオンライン授業とか遠隔授業という方法が導入されましたが、言うは易く行うは難しです。やはり教育の基本は対面

によるやりとりが基本ではないでしょうか。なお、運営参事としての仕事には、これまでの数々の失敗で学んだ知見を生かしていきたいと考えます。

五月晴れの日、窓の外を眺めると、イチヨウやケヤキの若葉がまぶしく輝いています。美しい新緑から思い出されるのが長野県茅野市での一字荘生活です。山登りや飯盒炊爨といった自然体験が中心の宿泊生活でしたが、いま振り返りますと、夜遅くまでの語り合いというものが、子供にとっても教員にとってもいちばん意味のある教育的活動だったのではないかと考えます。一字荘での先生方や子供たちとの語らいは、その後の学校生活に大きな影響を与え、子供同士、教員相互の人間関係を豊かなものにしてくれました。〇〇先生との半ばぐてんぐてんの議論？も、翌朝のつらさともに深く記憶に残っています。

暑くなってくると思い出されるのが鵜原湾での至楽荘生活です。今から二つ前の学習指導要領改訂では、「生きる力」という言葉がつけられました。遠泳を核とした至楽荘生活で培われているのは、「生きる力」以上の「苦境や新たな状況を生き抜く力」です。私は着任した年の七月、引率教員として至楽荘生活で使ってもらい、現在は四十代半ばになる六年生と生活を共にすることができました。

附属学校教員あるいは副校長として発揮できた力は十分でなかったと反省していますが、これまで長い間大過なく過ごせたのは、私自身が至楽荘生活で「苦境や新たな状況を生き抜く力」を身に付けてもらったおかげではないかと思い、至楽荘生活という偉大な伝統文化、枠組みに深く感謝しているところです。

新型コロナウイルス蔓延といったような予測不能な状況は、今後もいつやってくるかわかりません。ソサイエティ 5.0 社会の到来に向け、高度情報化社会をますます進展、発展させることは重要ですが、ロボットやAIさらには人間をコントロールし活性化できるのは豊かな感性を兼ね備えた人間だけです。これから先も、そういった社会や人から求められる人が、小金井小から多く巣立っていつてくれることを願っています。

「新しい日常とは」

会長 小金井昭和 51 年卒 野久尾 悟

新型コロナウイルス感染拡大の中、皆さまにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか。皆さま、そしてご家族のご健康と安心安全を心からお祈り申し上げます。

これほど予想外の状況はありません。「撫子の会」も理事会をリモート会議に切り替えました。秋に予定しておりました総会・懇親会のリアル開催は中止にさせていただき、報告および決議事項はすべて書面をもつての対応とさせていただきました。ご了承ください。

母校も三月の卒業式を卒業生・保護者に出席者を限定し、在校生・来賓は不参加。六月になってようやく登校開始の状況とうかがっています。

もちろん今年の一宇荘・至楽荘生活も中止、秋の運動会も中止の予定です。

そのような中でもリモート機器を活用した授業など新たな挑戦が始まっているとの話を塚本副校長よりうかがいました。母校 ICT 担当の鈴木秀樹教諭の試みはマスコミでも取り上げられていましたので、目にされた方も多いのではないのでしょうか。

三月の緊急対応で学校の再開が見込めない中、Teams の全校導入を前提に教育機関向けに無償提供されている Office365A1 のライセンスを取得、全生徒のアカウント発行を行い、生徒に配布する PC がなくても、どんな情報機器からでも生徒と教員が同じプラットフォームでつながることができる環境整備を一気に進めたそうです。コロナ時代の学校再定義として、「"Face to Face" の教育から、学びの "Side by Side" へ」を目標に新たな教育の在り方を模索し続けています。PC の全校配布ができないなら何をすべきなのか。家庭によって異なる環境下で何ができるのか。母校のそのしなやかな発想とポジティブな対応に学ぶことが多いと思います。



緊急事態宣言下、学芸大学の出入口は全て封鎖され、人の姿はありません

思い返してみれば、私たちの母校は、東日本大震災の際も海洋汚染の風評被害を乗り越え、至楽荘生活を維持継続しました。昨年の運動会でも、組体操・ピラミッドがその危険性に配慮して全国的に取りやめる方向にある中、安全に行う方法を検討し、継続実施しました。

「新しい日常」の定着に向けた取組の実践が叫ばれる中、世の風潮に流されず、悲観的になってしまうのではなく、「新しい日常」とは何なのか、深い思考と幅広い議論の中から解決策を導き出す、このしなやかな思考と対応力にこそ、天晴れ我が母校と叫ばずにはられません。

同窓生の方々のご活躍も伝わってきます。WHO に勤務され感染拡大の防止に向けて対応されている方、最前線である病院で奮闘されている方々のお話もうかがいます。また、どんなことがあってもへこたれず、立ち上がって前を向く皆さまがいらっしゃいます。そんな皆さまお一人お一人の少しでも前に進むとする勇気こそが、新しい、まだ誰も見たことのない、「新しい日常」を切り開いていくのだと思います。

私は、こんな時代だからこそ、この撫子の会をこの新しい環境に対応させていき、皆さんの明日への活力となるような、そのような活動を続けていくことのできる組織であらねばならないと考えています。



リモート会議による理事会

コロナ禍～余儀なくされる自粛

コロナ終息後の 音楽に期待すること

小金井昭和 39 年卒 佐々智樹

新型コロナウイルスのパンデミックはいまだに全世界で拡大を続けています。

感染予防のために自宅での自粛を余儀なくされ、移動が制限されたために様々な産業に 100 年に一度と言われる未曾有の経済的な打撃を与えています。スポーツ、観光業、飲食業、大小小売業などの被害状況が連日に亘り報道されて来ましたが、6 月からプロ野球や J リーグなどのスポーツが再開され、人々の県をまたぐ移動も自粛が解除されました。これからは第 2 波、第 3 波の感染拡大をどう防ぐかという戦いになります。

音楽・文化・芸術活動に関しては、ライブハウスでのクラスター発生が発火点となってクラシック、ポップス、ロック、ジャズなどの大小音楽コンサート、歌舞伎を代表とする日本伝統の舞台芸術、落語や漫才といった大衆演芸から小劇場公演に映画鑑賞、映画制作、TV ドラマの制作などが

延期・中止に追い込まれてしまいました。ここまで音楽・文化・芸術活動に痛烈な一撃を与えたパンデミックは近年経験のない事です。長年音楽に関わる仕事をして来ましたが、3 月から年末までの全ての仕事はキャンセルとなりました。私が今強い懸念を感じている事は、多くの若いアーティスト達が長期に亘って仕事を失い明日の生活に苦しんでいる事です。そしてアーティストだけでなく、コンサート企画運営、そして舞台制作に携わる大変多くの人々も、突然仕事が絶たれて生活が逼迫しています。

3 月 17 日にドイツのメルケル首相がドイツ国民に対して行った演説は、国民の命を守る人間として、慈愛に満ちた極めて説得力のあるものでした。そしてドイツの行った行政支援策で私が感銘を受けたのは、小規模の文化施設やフリーランスの芸術家たちに、生活と創作環境の支援を即座に打ち出した事です。なぜ日本において文化・芸術に対する支援策がいち早く行われなかったのでしょうか？日本固有の文化・芸術を守っていくことは極めて大切な事であり、早い対応策が打ち出される事を祈るばかりです。

さて、自粛期間に少し時間が出来たので、仕事で聴く音楽を離れて自分が好きだった音楽を聴き直す機会を増やしてみました。これまで夢中になったアーティストの音楽を改めて聴いてみると、人生のいろいろな節目に素晴らしい音楽との出会いがあった事を思い出させてくれました。そして心が癒され新鮮な感動と共に、明日への希望が生まれて来ました。是非皆様も苦難の中にあっても、音楽で心を休め、コンサートに出かけて明日への光を見つけていただければと思う次第です。コロナを契機として、今後は一層デジタル化社会になって行くでしょう。そのような時代になっても、コンサートや舞台芸術など、人間が作り出すナチュラルな文化が一層輝いて行くことを期待しています。

コロナ終息後の音楽は奇をてらった一過性のものではなく、人間の心に染み入り、感動が何年経っても色あせない作品が数多く生まれる事を楽しみにしています。

～会報 20 号続編～

記念碑が完成！

副会長 小金井昭和 41 年卒 川田 紀雄

【無事に立派な場所に移設完了！】

文字通り雲ひとつない快晴の令和元年 11 月 16 日土曜日、奇しくも小金井で開催される当年度の我が総会と日程が重なってしまいましたが青木特別顧問を含む 3 名にて、改修なった「池袋西口公園」で開かれる完成お披露目式典に参加して参りました。式そのものは区の主催、西口公園のオープン披露のためのもので消防庁、警視庁の音楽隊の演奏を始めとして 3 時間ほど続く艶やかな「劇場公園」の始まりに大変ふさわしいものでした。

そもそも今回の「発祥の地記念碑」の移設の話は、碑の立っていた池袋西口公園そのものの改修計画が持ち上がったことが発端でした。豊島区では驚いたことに、近年では人口減少化まで噂されるという状況の中で、区長を中心として様々な区全体の活性化計画が検討され実行されてきました。その「国際アート・カルチャー都市」豊島区のテーマの流れの中でひとつの象徴的な目に見える改革として、西口駅前の広場公園の大規模な「劇場空間化」が計画され、その中で我々の記念碑の移転が必要となった、と言う経緯なのです。

幸い各方面への働きかけの結果、メインステージの左横という少々目立ちすぎるかなという移設後のスペースを提案していただき恐縮しつつ計画の進行の相談にのらせていただきました。気になっていた「この位置」はちゃんと元の学校の敷地なの？という疑問に対しては、前号の調査通り、校庭の南端だがしっかり敷地の内側ということを確認できました。ホッとした次第です。

【碑文に少々文章を追加しました。】

記念碑と附属の銘文板そのものは昭和 48 年の時点ですでに豊島区に寄付されていたので区の所有物ということなのですが、銘文板の方は痛



みも激しく耐久性もあまりない素材でできていました。そして文章そのものについてもいくつかの変更が出来るものならこの機会にしたい、という声が強く、区との交渉の中で銘文板の大きさを変えずに、新しいものに入れ替えさせていただく、という方針を了承してもらいました。

もともと銘文板に書かれていたのは石碑裏面に書かれていたものと同文なのですが、当時の設置場所や植栽の関係で正面からそれを読むのが難しいということで設置されています。今回の移設では今のところ実は裏に回ることができます、しかしながら将来の植栽等の成長を考え、また以前と同じ雰囲気を保つためにも正面側に向けた銘文板が設置されています。材質は支柱とともに耐久性を考えて向上させていますが。



そこで肝心の文案ですが、我々関係者に向けて、ではなく「なんでこんなところにこんな碑があるの？」という初めて通りがかった方にもわかりやすいものにしたい、という考え方で検討することにしました。もう今現在の小学生にも「池袋ってどうして？」と言われそうな時代になってしまいましたし。しかしながら昭和48年当時記念碑建立の主体となってくださった撫子会（前号で解説しましたが豊島師範の同窓会、つまり先生方の同窓会）もすでに解散しており、変更に関して問い合わせもできません。そしてやはり建立当時の文章には手を入れられないということになりました。しかも板のサイズは区との約束があるので大きくできない。あまりたくさん書くと字がどんどん小さくなる！というようことになってしまい、検討には時間をかけましたが、添付したように新たな説明文を足す、ということで結論としました。

「なんでこんなところに？」「ホントに小学校があったの？」というような小学生の「？」に答えられると良かったのですが、その意味ではちと不満足な仕上がりです。

前号、前々号でお伝えしたように現在小金井の大学構内には「大学資料室」（附属小と附属中の間の建物にあります。）があり、そこには豊島師範・附属校に関するかなりの資料が整理され保管され

て閲覧できるようになっています。また東久留米の修練会には「撫子会」資料室も残され、記念碑建立当時の新井喜惣治先生製作の撫子の徽章ブロンズの原型も残されています。

（大学資料室：042-471-6600）

（修練会：042-329-7277）



左から 大鹿晏弘理事
青木輝彦特別顧問
川田紀雄副会長

記念碑建立前後の事情については撫子会1988年発行の「撫子八十年」に詳しく書かれています。

建立の昭和48年といえば、附属校が小金井に完全移転してから未だ10年も経っていません。まだまだ池袋の地への思い出が強く、当然と思いますがその時期の先生方の「発祥の地」記念碑建立へのご努力とその完成にあたっての感動は筆舌に尽くし難かった、その様子が克明に記されています。

建立後、定期的に記念碑を訪れて清掃をなさっていたことも描かれています。

（「撫子八十年」に興味のある方は「撫子の会」までご連絡ください。）

報告しましたように区主催の西口記念公園のオープン式典には参加したわけですが、我々「発祥の地」を引き継ぐ同窓会としては「移設完成」に関して何もしていませんので、近々附属開校110年などを勘案しながら池袋の地に「撫子の会」の皆様と集まれるようなプランを立てたいと考えています。

沿革の概要

- 一、明治四十一年十一月 東京府豊島師範学校設置告示
- 一、明治四十二年四月 此の地に校舎新築・開校
- 一、明治四十四年四月 附属小学校開設
- 一、昭和十八年四月 東京第二師範学校と改称
- 一、昭和二十年四月 空襲により附属校舎を残して全焼
- 一、昭和二十二年一月 本校小金井の地に移転
- 一、昭和二十四年五月 東京学芸大学に発展し附属小学校は附属豊島小学校と改称
- 一、昭和三十九年三月 豊島小学校小金井に移転
- 昭和四十八年三月 建之
- 豊島師範学校同窓会 撫子会
- 同 附属豊島小学校 同窓会

この記念碑の裏面には右同文が刻まれています。

その後「撫子の会」は平成十八年に解散し、その伝統は東京学芸大学同窓会及び辟雍会に受け継がれています。同じく附属豊島小学校同窓会は文京区本郷にあった東京第二師範女子部附属追分小学校同窓会と共に平成四年小金井本校の地にある東京学芸大学附属小学校同窓会に合流、三校共通の徽章である「なでしこの花」を掲げて附属小学校の同窓会「撫子の会」となっており小金井の地を拠点に活動を続けています。

令和元年十一月

池袋西口公園改修整備工事に伴う記念石碑の移設時に記す。

東京学芸大学附属小金井小学校同窓会「撫子の会」

学童疎開

豊島昭和 22 年卒 新保郁也

夏の暑いさかり上野発の夜行列車にゆられついた所は山形県上の山市の月岡ホテル、毎日温泉につかり上の山の学校を借りて授業は行はれていた。同期に歌にも映画にもなった空の英雄加藤隼戦隊長の息子が居たこともあり同じく同期の山谷馨（倉本聰）等皆一緒になって軍歌が盛んに唱はれた。問題は山の手育ちの我々はなぜか下町育ちの二亀（第二亀戸国民学校）にしつこく狙はれ登下校の際ボコボコにされることと山形の冬は寒く“おねしょ”をしない子は居なかった。戦争が激しくなり月岡ホテルも兵隊さんの療養所となり、私達は蔵王を眺める小穴部落の寺に引っ越しとなる。今までの温泉と違って、寺の本堂に数拾名のザコ寝となり蚤しらみに悩まされた。寮母さんが下着を熱湯消毒してくれるが、しらみつぶしが毎日の日課。勤労奉仕は“かいこ”のえさの桑の葉つみ。終戦詔勅はこの農家で聞いた。さあ～東京に帰れるぞ！蔵王に一泊旅行の遠足をしたりして十月に上野駅着東京は一望の焼野原、池袋も駅前から二又交番まで焼けて師範の校舎講堂、柔道場等木造のものは全て焼失跡地は闇市となり、かうじて鉄筋の附属小の校舎とプール、グラウンドだけが残っていた。

近況のご報告

豊島昭和 22 年卒 横山（立田）和子

千鳥ヶ淵の花盛り九段大銀杏落葉につつまれて八十五才の平和な日々です。

生家材木商森林浴の中、児童合唱団として日比谷公園で“今月も学校へゆけるのは兵隊さんのおかげです”“お山の杉の子”の軍国少女でした。

敗戦は焦土に残る豊島小・中にお世話になりました。1Fの図書室は外国シアーズのカタログに魅入られ、プールで存分にご指導いただき、当用漢字が毎朝の勉強で十位迄を競うので新聞をよく

読むのが習慣となりました。本好きになると共に映画芝居遊び呆ける頃、同業に縁づき姑介護の中、在宅投稿で俳句・短歌から連句の面白さに惹かれ在京寺社、全国国民文化祭、外国にも伺い、十年千巻（座）で一区切と卒業。今は心のままに楽しい連中としぼりがゆるゆるの文音（文のやりとり）と地域ボランティアもそれなりに。

うたたねに鬼も棲むかや桃源郷
そしてもう一句
箱根路に歌麿展の薄明り
逢魔が時か 美（は）しき秘絵（ひそかえ）



母校創立記念事業への寄付のお願い

母校は、創立から百十周年を迎えました。これを記念して、母校では様々な事業が検討されておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の折、感染動向を確認しつつ、概ね以下の記念事業が予定されています。

- ・記念式典＝対象を在校生・教職員に絞り、全校記念撮影などの簡易対応
- ・記念品贈呈＝在校生対象
- ・グラウンド改修事業＝新校舎・給食室設置以降、三十年に亘って未補修状態であったグラウンドの改修工事を実施

以上の創立記念事業を支援する目的で撫子の会としては、母校に対し寄付金の贈呈を予定しております。

本会報に同封させていただきました郵便払込票をご利用いただき、寄付金をお振込みいただけますと、撫子の会がおまとめさせていただき、母校にお届けいたします。

同窓生の皆さまにおかれましてもご理解ご協力いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

書面決議事項

■第1号議案 収支決算報告承認の件、下表の通り報告いたします。

収支決算報告 小金井昭和51年卒 丸森康平

2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)

A. 収入の部

科 目	金 額
・前年度繰越金	14,191,117
・入会金	1,040,000
* 2019年度3月卒業入会者／104名	
・寄付・懇親会費他	1,142,375
・受取利息	9,319
合計	16,382,811

B. 支出の部

科 目	金 額
・会報19号印刷郵送費	1,379,273
・総会懇親会費	174,089
・HP維持費	24,030
・支払利息	1,393
・次年度繰越金	14,804,026
合計	16,382,811

2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日)

A. 収入の部

科 目	金 額
・前年度繰越金	14,804,026
・入会金	980,000
* 2020年度3月卒業入会者／98名	
・寄付・懇親会費他	693,204
・受取利息	7
合計	16,477,237

B. 支出の部

科 目	金 額
・会報20号印刷郵送費	1,394,809
・総会懇親会費	107,898
・HP維持費	29,376
・事務費	32,769
・慶弔費	32,464
・次年度繰越金	14,879,921
合計	16,477,237

■第2号議案 役員の選出の件

現役員は本総会をもって任期満了となります。これに伴い2020年8月8日に開催された理事会において、下記の方々が候補者として提案されましたのでご承認をお願いします。

理事

大鹿 晏弘(豊島 昭30)
山佐 和雄(追分 昭33)
柴田 通彦(豊島 昭35)
石原 康一郎(豊島 昭38)
川田 紀雄(小金井 昭41)
神田 薫(小金井 昭46)

監事

野久尾 悟(小金井 昭51)
丸森 康平(小金井 昭51)
保坂 健二(小金井 昭52)
清水 洋岐(小金井 昭56)
吉田 朋弘(小金井 昭58)

楠本 維大(小金井 昭58)
浦田 智則(小金井 昭60)

顧問

佐々 智樹(小金井 昭39)

特別顧問

青木 輝彦(豊島 昭30)

総会議決投票用紙のご提出のお願い

この度は新型コロナウイルスの蔓延に伴い、総会を中止せざるを得なくなりましたことをお詫び申し上げます。

総会の中止により、皆様方にご審議いただく予定の議案につきましては、書面にてご承認を頂くことになりました。賛否投票方法については会報に同封した用紙により、下記のいずれかの方法で投票願います。

- ①ゆうちょ銀行・郵便局払込用紙（払込取扱票）の通信欄への記入による投票
（撫子の会へのご寄付を頂ける場合は、こちらをご使用ください）
- ②メールによる投票…投票用紙をスキャン / 撮影して添付・送信してください。
（送信先は投票用紙に記載されています）
- ③投票用紙の郵送、又は FAX による投票
（送付先は投票用紙に記載されています）

お忙しいところ誠に恐縮ですが、10月30日必着にてご提出をお願いいたします。

なお、当日までにご返信がない場合は、ご承認いただけたものとさせていただきます。

撫子の会から皆さまへのお願い

◆ご寄付のお願い

「撫子の会」の運営は、主に小学校卒業時に新入会員からの入会金と、皆さまからのご寄付でまかなわれています。ご案内のとおり、大学の国立大学法人化のあおりを受け、附属学校の予算削減の影響で、4クラスあった学級は3クラスに、1クラス当たりの人数も約40名前後だったものが35名に削減されました。

これにより入会金収入は以前に比べて35%もの減収となり、将来の運営財源が危ぶまれています。「卒業生便り」でもご案内しました、百十周年記念事業支援とあわせ、運営費につきましても皆さまからのご寄付のご協力を、よろしくお願い申し上げます。

◆運営メンバー募集中

私たちと一緒に「撫子の会」を盛り上げませんか？

おもな活動は、会報の製作や総会・ぶらり同窓会の開催などです。今後はさまざまな母校の「記録」や「記憶」を、後世に引き継ぐためのアーカイブ事業なども企画しています。同じ学び舎で学んだ同窓生同士、卒業後もつながりあって共に母校を支えてまいりましょう。お問い合わせは、nadeshiko@nadeshikonokai.jp まで。

◆会報へのご寄稿のお願い

皆さんと創る会報を目指しています。クラス会・同窓の仲間の集い・伝え残していきたい母校の思い出話など、ほか何でも。先ずは下記までお申し出ください。

メールアドレス nadeshikokaiho2013@gmail.com

川田 紀雄 電話 042-324-9912

野久尾 悟 〃 03-3720-8023



訃 報

大変お世話になりました至楽荘管理人の清水章次さんが9月1日、ご逝去されました。享年80歳。心

からご冥福をお祈り申し上げます。

撫子の会 会報 21号

発行 2020 (R 2) 年 10 月

発行責任者 野久尾 悟

編集 神田 薫

印刷 (株) クラシブ

●投稿寄稿のお問合せ先

川田 紀雄 (電：042-324-9912)

野久尾 悟 (電：03-3720-8023)

●同窓会事務局

東京学芸大学附属小金井小学校内

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

(電話) 042-329-7823 (Fax) 042-329-7826

●撫子の会郵便振替口座

00100-8-709121 加入者名：撫子の会